

牛年

令和八年

謹んで新年の

働き、暮らし続けられる環境を整えることが重要となっています。そのため、将来的な保守管理人材の育成に資するトレーニングセンターおよびデータセンターの誘致、工事関係者などの受け入れに必要な宿泊環境の整備など、「仕事と人の流れ」を町に生み出すための準備を進め、この機会を逃さぬよう、国、北海道および関係機関と連携しながら、情報収集や対応を進めてまいりました。

次に、地域課題の一つである空き家対策では、これまで進めてきた除却（解体）支援に加え、空き家を「地域の資源」として捉え直し、ワーキングハウスや交流の場、さらには民泊などへの活用策を具体的に進めるため、町ではA i r b n bとJ T Bが創設した「地域未来にぎわい工房」に参画し、空き家の改修を基盤として観光振興や関係人口の創出を目指すプロジェクトを開始いたしました。空き家の情報も集まり始めており、実態把握を進めながら、地域の皆様と丁寧に相談し、無理のない形で活用を広げていきたいと考えております。

また、こうした変化の時代に、役場だけの発想では限界がありま

す。そこで、外部の知見・ネットワークを町政に取り入れるため、

地域活性化起業人を三名委嘱し、

効率化、町公式LINEを活用した行政サービスの改善など、町民の利便性向上につながる取組を進めてまいりました。さらに、農水産物の販路拡大や加工品開発、ふるさと納税など、町の財源確保、地域経済の底上げに向けても、挑戦を続けております。

民間の視点から政策推進を支援していただきとともに、空き家活用の推進、デジタル活用による業務の効率化、町公式LINEを活用した行政サービスの改善など、町民の利便性向上につながる取組を進めています。さるに、農水産物の販路拡大や加工品開発、ふるさと納税など、町の財源確保、地域経済の底上げに向けても、挑戦を続けております。

生産者・事業者が特産品開発に取り組むための補助事業を新設し、加工品開発や新たな販路開拓を進め、六月には地元食材の活用を通じて、町民の健康と地域活性化を目指す「賢食宣言」を発表し、

健康長寿、文化創造・伝承、交流、カルチャー、教育の五つの柱を掲げ、地域資源の再発見と活用を図り、十月には「上ノ国ちゃんこ」

のお披露目をはじめとするイベントも開催しました。北海道司厨士協会との連携では、アスパラガス、アワビ・エビ・ヒラメなどの食材

をPRするとともに、道内外の料理人に来町いただき、現地視察や食材PRの機会を重ねてまいりました。

併せて、暮らしに直結する移動手段の確保として、十月からA I DEMAND BUS「カミGO！」が運行を開始いたしました。電話・ア

プリ・LINEで予約でき、これ

年は午年、馬が大地を駆けるように物事が前へ進む年とも言われます。本町においてもスピード感を大切にしつつ、丁寧な準備と安全確認を怠らず、町民の皆様とともに一歩一歩前進し、「みんなで創る誇れるふるさと上ノ国」の実現に向けて、全身全霊を傾けてまいりますので、町民の皆様には

より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和八年、この新しい年が明るい話題で満ちあふれ、町民の皆様お一人おひとりにとって実り多い素晴らしい年でありますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

令和八年元旦